

■評価総括表(R1年度)

資料2

第1編 ごみ処理基本計画

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
基本目標	ごみの年間総排出量	ごみの年間総排出量	数値		B	目標値70,531tに対し、実績値70,573tとなり、目標達成率99.9%となったが、前年度比で増加となり効果があまりなかったことから、Bとした。	資源循環課
	市民1人1日当たりの排出量	市民1人1日当たりの排出量	数値			目標値805.5gに対し、実績値797.16gとなり、目標達成率101.0%となったが、前年度比で増加となり効果があまりなかったことから、Bとした。	資源循環課
	市民1人1日当たりの資源物を除く排出量	市民1人1日当たりの資源物を除く排出量	数値			目標値620gに対し、実績値642.35gとなり、目標達成率96.5%となったが、前年度比で増加となり効果があまりなかったことから、Bとした。	資源循環課
	リサイクル率	リサイクル率	数値			目標値26.1%に対し、実績値21.8%となり、目標達成率83.5%となり、資源化の効果もあまりなかったことから、Cとした。	資源循環課
	最終処分率	最終処分率	数値			目標値9.0%に対し、実績値9.9%となり、目標達成率90.5%となったが、前年度比で増加となり効果があまりなかったことから、Bとした。	資源循環課

【基本方針I】ごみの発生抑制・再使用・再生利用の推進

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
1. リフューズの推進	①マイバッグ運動・レジ袋対策の推進	活動実績	数値外		A	「ごみ通信ちがさき」、「環境フェア」、「環境学習会」等の各種啓発事業において啓発を行ったことから、Aとした。	資源循環課
2. リデュースの推進	①環境を意識したごみの排出抑制の啓発	市民1人1日当たりの排出量	数値			目標値805.5gに対し、実績値797.16gとなり、目標達成率101.0%となったが、前年度比で増加となり効果があまりなかったことから、Bとした。	資源循環課
	②ごみ減量・リサイクル推進店の活動支援	活動実績	数値外			ごみ通信ちがさきとホームページにより新たな周知を図ったものの、閉店により9店舗減の83店舗となり、活動支援を行えていないことから、Cとした。	資源循環課
	③生ごみ処理容器等の普及の推進	生ごみ処理容器等の購入基数	数値			目標90基に対し112基となり、目標を達成することができたことから、Aとした。(目標達成率124%)	資源循環課
	④ごみの排出抑制・減量化に繋がる諸制度の検討	検討の有無	数値外			ごみ有料化について検討し、順調に進捗したこと、説明会の中で啓発チラシを活用した周知啓発を実施したことから、Aとした。	資源循環課

3. リユースの推進	①リサイクル市・フリーマーケット等の開催情報の提供	活動実績	数値外	B	-	市が積極的に情報提供を行う必要性は少ないことから、施策を終了し、評価は行わないこととした。	資源循環課	
	②リサイクル品展示室の活用推進	リサイクル品展示数	数値外		B	B	リサイクル品展示室は閉鎖したが、出張展示を行ったことから、Bとした。	環境事業センター (業務担当)
4. リサイクルの推進	①剪定枝資源化の推進	検討の有無	数値外	A	A	事業者へのヒアリングに基づき、事業スキームや市民が排出する際の基準について検討し、順調に進捗したことから、Aとした。	資源循環課	
	②適正分別のための情報提供	周知実績	数値外		A	A	様々な媒体を通じて、適正分別に関する情報提供を実施することができたことから、Aとした。	資源循環課
	③集積場所における適正排出の指導	実施の有無	数値外		A	A	環境指導員研修会や地区会議、施設見学会を開催し適正排出についての情報提供を行ったことから、Aとした。	環境事業センター (業務担当)
	④家電リサイクル推進の継続	周知実績	数値外		A	A	各種媒体において家電リサイクル法対象品目とその処理方法を周知を行い、また、使用済小型家電の回収量が、前年度比6,287kg増の19,509kgとなったことから、Aとした。	資源循環課
5. 事業系一般廃棄物の排出抑制・資源化の推進	①「4R推進事業者行動協定」の創出	実施の有無	数値外	B	B	新規の協定はなかったが、「茅ヶ崎青年会議所」が主催するイベントに後援・出店に際して、事業系ごみを含めたごみの削減・資源化に関する情報提供等を主催者に対して行えたことから、Bとした。	資源循環課	
	②多量排出事業者における減量化等計画書の提出	提出数	数値		B	B	多量排出事業者22社に対し、22社から減量化等計画書の提出があり、目標達成率100%となったが、事業系ごみは増加したことから、Bとした。	資源循環課
	③事業系ごみの排出状況の把握	実施の有無	数値		C	C	事業者への訪問や搬入物調査を実施しなかったため、排出状況の把握ができなかったことから、Cとした。	資源循環課
	④事業者の訪問	訪問件数	数値		B	B	事業者への訪問を説明会の実施に替えて啓発を実施したが、事業系ごみの排出量が前年比4.7%増となったことから、Bとした。	資源循環課
	⑤事業系直接搬入ごみの分別指導	定期的な指導	数値外		B	B	搬入物調査の説明会の実施に替えて啓発を実施したが、事業系ごみの排出量が前年比4.7%増となったことから、Bとした。	資源循環課
6. 受益者負担の適正化	①家庭ごみ有料化等導入の検討	検討の有無	数値外	A	A	説明会、パブリックコメント手続きを経て、「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針」を策定し、ごみ有料化導入の検討が順調に進捗したことから、Aとした。	資源循環課	
	②一般廃棄物処理手数料改定の検討	検討の有無	数値外		A	A	説明会、パブリックコメント手続きを経て、「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針」を策定し、手数料改定の検討が順調に進捗したことから、Aとした。	環境事業センター 業務担当 資源循環課

【基本方針Ⅱ】資源循環型まちづくりを目指したごみ処理システムの構築

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
1. 収集・運搬 (1)ごみを取り巻く環境の変化に対応した収集・運搬の検討	①効率的でバランスの良い収集区割の調査・検討	実施の有無	数値外		A	A 各地区の世帯数や現状の収集体制を総合的に勘案し、最適な収集コースの検討を行ったことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
	②今後の社会情勢を踏まえた集積場所のあり方、収集方法の検討	実施の有無	数値外			A 安心まごころ収集について、適切に実施するとともに安心カプセルの提供や近年市内にて多発している特殊詐欺被害の防止啓発用のチラシ等を配布し、啓発を行ったことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
(2)環境と安全に配慮した収集・運搬の実施	①環境負荷の少ない収集車両の積極的な導入	導入台数	数値		A	B 収集車両について、更新発注は行ったものの、納車が次年度繰越となったことから、Bとした。	環境事業センター業務担当
	②環境指導員との連携による集積場所の安全確保	研修会及び意見交換会の開催	数値外			A 環境指導員会議(2回)、研修会(1回)、施設見学会(1回)を開催するとともに、集積場所におけるネットボックスの適切な使用等安全確保や連携強化を図れたことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
	③環境負荷の少ない収集・運搬技術の研究及び積極的な導入	研修会等実施実績	数値外			A 安全運転の研修(2回)、安全作業の研修(7回)、技術者講習(1回)を実施し、収集運搬技術の向上を図れたことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
2. 中間処理 (1)中間処理施設の整備	①リサイクルセンターの適正かつ効率的な運営	実施の有無	数値外		A	A 施設の適正かつ効率的な運営に向け、隔月で運営全体会議を開催し、意見交換を行ったことから、Aとした。	資源循環課
	②粗大ごみ処理施設の整備	実施の有無	数値外			A 土壌(表層)汚染結果に基づき、汚染の地中到達深度を調べるための詳細調査を実施、旧炉の上屋解体工事を滞りなく実施したことから、Aとした。	資源循環
	③焼却処理施設の大規模改修	実施の有無	数値外			A 平成29年度に大規模改修を完了し、保守点検に基づく適正な修繕を実施し、適正処理が進んでいることから、Aとした。	環境事業センター管理担当
(2)中間処理残渣の減量化・再資源化の促進	①焼却残渣再資源化方法の調査・研究	調査・研究の有無	数値外		A	A 焼却残渣(飛灰)の新たな塩分除去手法について、民間事業者に灰を提供しパイロットプラントによる実験を行い、課題の抽出を行ったことから、Aとした。	環境事業センター管理担当
	②焼却残渣再資源化の促進	焼却残渣再資源化量	数値			B 目標値1,640tに対し、実績値1,054t、目標達成率64.3%となり、必要最低限の量の再資源化としたことから、Bとした。	環境事業センター管理担当
	③中間処理残渣の減量化・再資源化に繋がる中間処理技術の研究	研修会等への参加実績	数値外			A 研修会への参加実績はなかったものの、焼却炉の落じん灰を分析し、貴金属が含まれることから有価物として引き取りをってもらう検討を行ったことから、Aとした。	環境事業センター管理担当

3. 最終処分	①焼却残渣の減量施策の実施	焼却処理量	数値	A	B	目標値54,668tに対し、実績値56,293t、目標達成率103.0%となったが、焼却残渣の資源化についての検討を進めたことから、Bとした。	環境事業センター管理担当	
	②最終処分場の安全管理の実施	実施の有無	数値外		A	A	施設修繕、点検及び周辺環境調査等を実施し、異常値がなかったことから、Aとした。	環境事業センター管理担当
	③最終処分に関する検討	検討の有無	数値外		A	A	地元関係団体との定例会を開催し、各種調査結果等の報告を行うとともに、意見交換が図れたことから、Aとした。	環境事業センター管理担当
4. 茅ヶ崎市域災害廃棄物の処理	①災害廃棄物発生想定量の把握及び処理・処分に関するマニュアル等の整備	発生量想定方法等の検討・マニュアル改定の有無	数値外	B	B	災害廃棄物処理計画を策定したものの、仮置場候補地の選定やマニュアルの整備には至らなかったことから、Bとした。	資源循環課	
5. 適正処理 (1)処理困難物等の処理方法についての情報の充実	①処理困難物の処理方法等についての情報の充実	広報実績	数値外	A	A	「ごみと資源物の分け方・出し方」への掲載や環境指導員会議において周知を図ることができたことから、Aとした。	環境事業センター業務担当	
	②製品の適正なりサイクルルートの周知	情報発信の有無	数値外		A	A	各種媒体による周知に加え、使用済小型家電の宅配回収について、チラシを配布し、製品の適正なりサイクルルートの周知を図ったことから、Aとした。	資源循環課
(2)不法投棄に対する防止策の検討	①重点地域・強化期間等を定めたパトロール・監視の強化	パトロール・監視実績	数値外	A	A	不法投棄の防止に向け、パトロールの実施や不法投棄防止看板、監視カメラの設置を行ったことから、Aとした。	環境事業センター業務担当	
	②県や警察との協力関係の強化	パトロール・監視実績	数値外		A	A	連絡会を開催し、不法投棄対策に関する協議や意見交換を行うとともに、警察・自治会・市の3者による合同パトロールを実施したことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
	③市民、事業者と連携した不法投棄の防止	不法投棄量	数値		A	A	不法投棄量、被害箇所数ともに削減ができ、啓発等の効果があったことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
	④キャンペーン等啓発活動の実施	活動実績	数値外		A	A	「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」の中で通常パトロール以外のコースのパトロールを行ったことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
	⑤不法投棄に関する調査・研究の実施	調査・研究の有無	数値外		A	A	(一財)家電製品協会と助成金に関する覚書を締結し、不法投棄対策に関する助成制度を活用することができたことから、Aとした。	環境事業センター業務担当

【基本方針Ⅲ】市民・事業者・行政の協力体制及び4Rの推進を誘発する支援体制の確立

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
----	----	------	------	--------	------	------	--------	-----

1. 広報紙等各種媒体の利用による啓発の充実	①広報手法・広報内容の検討及び効果的な啓発の実施	実施の有無	数値外	A	A	直接対話形式による啓発に努め、また、「ごみ通信ちがさき」では、イラスト、図、写真を多用してより目を引く表紙と紙面構成にしたことから、Aとした。	資源循環課
	②ホームページ、ハーモニアちがさき(市の広報番組)等の積極的な活用	実施の有無	数値外		A	衣類・布類の品目が拡大となることに向け、メディア媒体を含め各種媒体を活用したことから、Aとした。	資源循環課
	③公共施設等におけるポスター掲示の活用	実施の有無	数値外		A	市民や環境指導員の要望に沿う形で、啓発看板や冊子を作成配布し、また公共施設や広報掲示板を活用できたことから、Aとした。	資源循環課
	④外国人向けごみ情報の案内	実施の有無	数値外		A	「ごみと資源物の収集カレンダー」・「ごみと資源物の分け方・出し方」のホームページへの掲載(8カ国語対応)に加え、配布している「ごみと資源物の分け方・出し方」に英語・中国語による概要版を掲載したことから、Aとした。	環境事業センター業務担当
2. ごみ問題に関連した市民対話・環境学習等の充実	①ごみ問題に関する市民との意見交換会の実施	実施実績	数値外	A	A	市内136自治会のうち84自治会を対象に、「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針(素案)」等に関する説明会を実施し、様々なご意見を頂戴したことから、Aとした。	資源循環課
	②発生抑制、資源化に関する講演会の開催	開催実績	数値外		B	講演会は実施しなかったものの、「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針(素案)」等に関する説明会の中で、「はじめようごみ減量生活」と題し、ごみの発生抑制や資源化について、説明を行ったことから、Bとした。	資源循環課
	③児童向け環境学習への市職員の派遣	派遣実績	数値外		A	小学校8校、中学校3校に職員を派遣し、計1,269人を対象に環境学習会を実施し、ごみ処理の流れ等について学びの機会を創出できたことから、Aとした。	資源循環課
	④親子向け、市民グループ向け等多方面への廃棄物処理施設見学会の実施	実施実績	数値		A	目標としていた30回に対し、41回の申し込みがあり、延べ2,487人の参加があったことから、Aとした。	資源循環課
	⑤市民、事業者向け講座の開催	開催実績	数値外		A	自治会向け出前講座を2自治会で開催し、啓発を行ったことから、Aとした。	資源循環課
	⑥環境フェアにおける情報発信	開催実績	数値外		A	10月に開催した環境フェアにおいて、新聞紙を使ったエコバッグ作り体験をとおしてリサイクルの啓発を行ったことから、Aとした。	資源循環課

第2編 生活排水処理基本計画

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
基本目標	生活排水処理率(%)	生活排水処理率	数値		A	A	目標値97.8%に対し、実績値97.5%となり、目標達成率99.7%であったことから、Aとした。	下水道河川総務課 下水道河川建設課

【基本方針Ⅰ】公共下水道(汚水)・合併処理浄化槽の整備促進による生活排水処理の適正処理の推進

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
1. 公共下水道(汚水)・合併処理浄化槽の普及推進	①公共下水道(汚水)整備事業の推進	汚水面整備率	数値			A	汚水面整備率は、目標値97.8%に対し、98.1%となり、目標達成率100.4%となったことから、Aとした。	下水道河川建設課
	②水洗化奨励金制度等の活用による公共下水道への接続の促進	水洗化普及率	数値		A	A	平成29年度98.3%、30年度98.5%、令和元年度98.7%と、100%の普及に向けて順調に推移していることから、Aとした。	下水道河川総務課
	③補助制度の周知による合併処理浄化槽への転換の促進	補助事業により合併処理浄化槽を設置した基数	数値			B	目標2基(5人槽規模)(転換設置)に対し、1基(5人規模)の補助となったことから、Bとした。	下水道河川総務課 下水道河川建設課

【基本方針Ⅱ】安定した収集・運搬と、し尿及び浄化槽汚泥の適正処理の推進

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
1. し尿及び浄化槽汚泥の適正処理	①し尿、浄化槽汚泥量の変化に対応した収集・運搬計画	計画策定	数値外			A	排出量に応じた収集運搬計画を策定し、適切に収集・運搬を実施できたことから、Aとした。	環境保全課
	②し尿処理施設の適正な維持・管理	実施の有無	数値外		A	A	寒川町との連携により、適正に維持管理を実施できたことから、Aとした。	環境保全課

【基本方針Ⅲ】水環境の向上に向けた啓発活動等の推進

項目	施策	評価指標	評価方法	審議会の評価	市の評価	市の評価	市の評価理由	担当課
1. 啓発及び情報提供	①浄化槽の清掃の啓発	活動の有無	数値外			A	浄化槽の清掃作業時に、利用者に対し直接、効果的な啓発を実施できたことから、Aとした。	環境保全課
	②広報紙等による情報発信	活動実績	数値外		A	A	市民便利帳ちがさき生活ガイドなど複数の媒体を通じて情報発信を実施できたことから、Aとした。	環境保全課